

上伊良原こもりくの食、上空から帆柱方面を臨む、手前左に藤の宮高木神社が見えます

仏法領
ぶつぽうりょう
第87号



新納骨堂・4月末完成予定



発行：真宗大谷派
念信寺
〒 824-0202
福岡県京都郡みやこ町
犀川上高屋761
☎ 0930-42-0329
Fax 0930-42-0502
ホームページ
nenshinji.org
メールアドレス
nenshin@pony.ocn.ne.jp



前納骨堂「有縁立信」の額、今回も正面に

「大切なものの」
あなたの大切なものは
ほんどの方が、「家族」と
答えるかもしれない

この世に
生を受け
寝食を共にし
暮らす

やがて、家を出て
独り立ちしてしまう
嬉しくもあり、寂しくもある
どんな大人になるのか
どんな生涯の友に出会うのか

そして
大切なものが
一人また一人増えるのを
楽しみにしている

いつの時代も、同じ気持ちで
送り出していくのだろうか

(写真・文 大迫光浩)

「大切なこと」

人の役に立たない人生には
生きる価値がないという

そうなんだろうか？

どんな生き方も
どんな人も必ず救う

決して見捨てない



そのように呼びかけてくる
世界があると教えられている
南無阿弥陀仏

(住職)





今回も思い出に残る同行を前坊守・村上悦美に紹介してもらいます。

或る同行さま

そのお同行は「自分の根性はこんなにも浅ましいものです」と、時々洗いざらいの心情吐露にお寺に来られていきました。

なんと浅ましい、浅ましい。仏様のお陰で、取るに足らないこんな事に何日悩んだことと知らせいただきます。偽らない心の中の一部始終を自分の言葉で伝えて下さるのでした。仏間の仏様の前でゆっくりと時間を過ごさせました。

ある時、掛軸を持参下さいました。その軸を仏間に掛けて朝夕拝読されておられるそうなのです。

最近、蓮如様より直接お手紙をいただきまして、本当に有難くて御礼の申し上げようもございませんので、掛軸にさせていただきました。

蓮如様（1573～1625年）が何百年も前にしたためられた「白骨の御文」さまざまの自分にいただいたお手紙と受けとめたのです。自分がいかに浅ましい者であるかをくり返しく話されるのでした。そんな罪深い自分に出遇えた眞如の深さが蓮如様よりのお手紙だと領解を始めたのです。自分の身の廻りで確実なことが分かるのはせいぜい祖父の代まででした。

真如の法は現在も生き活きと流れ続け常の法水となり、絶えることがあり

ません。それに出遇えるご縁をいただかれるのが同行であり、苦しい現実の中で、ご苦労を通してお導き下さるのが法の友であります。ありがとうございます。お陰様でございます。お姿は無くとも、生きてはたらき続けていらっしゃいます。

芳韻にむせぶ露の世生まれ合ふ 悅美

人生に於いて大切なこと

吉富町 阿部正紀

人生において大切なこととタイトルは大袈裟であるが、それほど大仰に考える必要はないと思える。

十人十色という言葉もあるくらいで、人が千人れば千人の人々がそれぞれに自分の「人生において大切のこと」を所持しているものですね。幼稚園児には張り紙や

クレヨン、小学生には漫画本など。

大事なものとは何かという制約はない。物の場合もあれば、精神的なものなどいろいろある。

我々のように高齢者にとって大切なものは、物品にはもう飽き飽きとしていると思う。そうでない人もいるかもしれません。

最近、私は自分の「阿部」という姓に妙に拘りがてきたと思う。以前にもどこか

で書いたと思うが、自分の身の廻りで確實なことが分かるのはせいぜい祖父の代まで

であろう。

なのに、何故か先祖代々長い間「阿部」姓を続いているのである。抛ってきたる所以も何も分かつたものではない。

こうなると何か縁があつて姓を名乗つているとか考えようがない。誇りにするもの何もないが、また、どんな縁があったのかもわからないが、とにかく阿部という姓にキズ、瑕疵を付けることだけは在つてはならないと考えている。

この人生の終末期においても「人生に於いて大切なこと」とは「んな他愛のないこと」と考えてている。

戦争終結を願う

北九州市小倉北区 吉田昭和

第二次世界大戦のヨーロッパの戦場を見ている様な錯覚になる場面が、毎日テレビが映している。ウクライナの被爆地である。

美しい町並みは廃墟と化し、多くの死傷者、安全地を求めて避難をする人々等。

私は戦後の生まれで戦争を知らない。今の日本では、ウクライナの様な状況がわが身に掛かって来るとは思っている人は少ない。北朝鮮、中国等の事もそんなに深刻には考えていない。日本はあまりにも自由で平和な国である。

今日三月十三日は私の父の四十七回目の命日である。父は海軍の技術将校で宮城県の船岡の海軍火薬廠に勤務し

ていた。父の死後、火薬廠時代の部下だったと言う方から手紙を頂いた。その中に父が当時渡したと言う一枚の書が同封されていた。「見敵必殺」と文字が刻まれていた。厳しさの中に優しさを持つた人であったと思っていましたが、戦争と言う状況は、父の感情を激しいものに変えたのだと感じた事を思い出しました。

今、ウクライナで起つてている事は、正に戦争である。世界中の多くの人が停戦を望んで声を上げているが、ブーチン大統領には届いていないのか?歴史上、独裁者は自己の考えに陶酔し、他の意見を全く聞き入れない。一番苦境に陥るのはウクライナの人々であるが、ブーチン大統領にはロシアの一般市民も苦しむ事に早く気づいて、戦争終結を行つて欲しいものである。

なぜお墓に参るのか

お墓は何のためにあるのでしょうか。大切な人を埋葬し、弔うということは、私たちにとってごく自然な行為です。しかし、お墓や遺骨に関して、方角や日の善し悪し、作法の正解不正解にとらわれることがあります。

そのようなとらわれは、亡き人を敬つているようで、実は自分の身に起つる都合の悪い事柄を避けたいという思いからきているのではないでしようか。

お墓はなくなつた方へお願い事をする場ではありません。亡き人を偲びつつ、自分もいつかはいのちを終



えていく身であることを教えられる、大切な人との別れをとおして自らの生を考えていく場です。

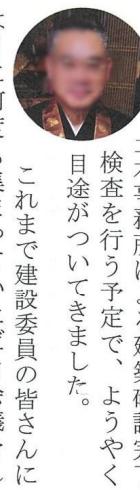
(真宗大谷派九州教務所ホームページ・アフターケア通信より)

新納骨堂建設にあたつて

ご挨拶

陽春の候 ようやく暖かくなつてきました。いかがお過ごしでしょうか。

定より少し遅れましたが、4月20日には県土木事務所による建築確認完了検査を行う予定で、ようやく目途がついてきました。



建築工事の状況を申し上げますと、予定より少し遅れましたが、4月20日には県土木事務所による建築確認完了検査を行う予定で、ようやくです。

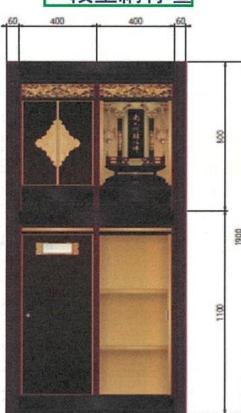


2022年3月23日足場撤去

これまで建設委員の皆さんには月に何度も集まつていただき会議をして、ようやくここまでたどり着いたところです。

木造のメリットは耐久年数が長いことと建物の美しさがあります。木造の納骨堂として九州で数例しかない仕様によって建設されたもので、立派なお堂が出来たと喜んでおります。

一段型納骨壇



納骨の形式・加入費

今後の予定

- 4月21～23日はせがわ美術工芸による納骨壇・お内仏工事
- 4月25日竣工引渡し（飛鳥社寺・建設委員会）
- 5月8日総会（建設委員会解散・管理組合発足）



2022年3月13日建設委員会

これまでの経緯

- 8月22日新納骨堂建設のための総会
- 納骨堂建設委員会の結成

建設委員の選任

- 建設は「飛鳥社寺」、納骨壇は「はせがわ美術工芸」に決定

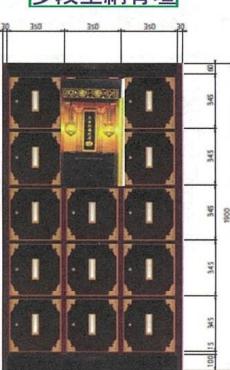
工事申請手続き

- 9月以降、契約、工事申請手続き

10月解体、11月基礎工事着工

11月～1月30日上棟式

多段型納骨壇



□ 多段型は一区画に骨壺6寸2個、5寸2個あります。11～18万円の予定。23区画

※第2期募集になると加入費が
上がることもありますので、
ご注意下さい。



納骨堂の棟札です



この「帰命盡十方無碍光如來」も「南無不可思議光佛」も「南無阿弥陀佛」と同じ意味です。インドの言葉「ナムアミダブツ」は、「限りないのちのほとけ、限りない光のほとけの仰せにしたがいます」の意味です。「わたしの名を呼んでほしい、名を称えるものを必ず救う」と仏様に願われ誓われている名、本願の名なのです。

お参りの日々

村上宣

とおる

雪も溶け、春の温かな風が吹く頃合いとなりましたが、皆さんはどのようにお過ごしでしょうか。

北海道はやっと除雪が行き届き、快適に車での移動ができるようになりました。

今年は例年よりも多くの雪が降り、1月2

月のお参りは、庄雪と吹雪に悩まされ、何度も福岡が恋しく感じました。離れて分かる快適さがあるのだと思うばかりです。

今回は住職から「大切なこと」をテーマにとの話で、何を書こうかと考えていたのですが、つい先日に感じ入った漫画があり、それについて軽く触ることとします。

漫画の題は「タコッパーの原罪」という作品です。

話の内容に触れると、「いじめっ子」という構図で進む物語で、「いじめっ子」と「いじめられっ子」にはそれぞれ家庭の問題があり、「第三者」は行き当たりばったりで人も幸せハッピーにするために行動するお話しで、漫画らしく「不思議な道具」も出てくるのです。私が面白く感じたのは不思議な道具や第三者の行動では登場人物の誰も幸せにできなかつたところです。

詳しくは省略ますが、この漫画は「相手と対等に話をすること、相手を理解すること」で、それぞれの登場人物はそれぞれの幸せを手にする結果を迎えていました。勿論、全ての問題が片付く訳ではなく、家庭環境の問題も怪我もそのまま、登場人物達はそれに苦しみますが、「ただ寄り添ってくれる人」がいるだけで、物語はハッピーエンディングを迎えていました。



私たちの生きる現実でもあることだと思います。

私たちもそのままで、登場人物達はそれに苦しみますが、「ただ寄り添ってくれる人」がいるだけで、物語はハッピーエンディングを迎えていました。



ただの漫画のお話ですが、私たちの生きています。人においそれと話せないこともありますが、隣にいて何気ない雑談などで、お互いを理解していくことが出来れば、軽くなる苦しみもあるかと思います。それがお寺や田舎のご近所付き合いのなかなと思いま

